

令和3年度 全国学力・学習状況調査 調査結果報告及び分析（横浜市立さちが丘小学校）

5月27日に調査を実施した「令和3年度全国学力・学習状況調査」の結果集計データを基に、本校第6学年児童の学力及び学習状況について分析を行いました。分析結果を今後の学習指導及び教育活動の向上に活用し、取組みを進めていきます。また、保護者の皆様におかれましては、各家庭での学習の参考にしていただければと思います。個人の結果については10月中旬に各家庭にお届けしておりますので、当分析と比べてご覧いただくことでより状況が分かりやすくなります。

今後とも本校の教育活動にご理解・ご協力よろしくお願いいたします。

1. 「令和3年度 全国学力調査 結果概要」（本校対象児童数：99名）

（1）国語科の調査結果及び分析

調査対象	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
さちが丘小学校	99	8.7 / 14	62
神奈川県(公立)	70,576	8.8 / 14	63
全国(公立)	993,975	9.1 / 14	64.7

区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
		さちが丘小	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体	14	62	63	64.7
評価の観点	知識・技能	62.8	63.8	68.3
	思考・判断・表現	61.7	62.5	62.1

国語科の調査結果においては、全国平均及び神奈川県平均をわずかながら下回る結果となった。観点別に見てみると、「知識・技能」において正答率が全国平均と約5%の差があり、「思考・判断・表現」の正答率も平均を若干下回っている。「知識・技能」面に着目して出題問題を見てみると、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことができるかを問われた問題（漢字の書き取り）において大きな差があることが分かった。「転がる」の漢字の書き取りでは、県平均を約8%・全国平均を約12%下回っていた。また、「積む」の漢字の書き取りでは、県平均を約10%・全国平均を約20%下回っていた。この結果が「知識・技能」での平均差に影響したと考えられる。この結果を受け、日々の新出漢字の学習や既習漢字の復習を重点課題として学習に取り組み、国語科の基礎学力の向上を進めていく。総合的な平均正答率は下回っているも

の、「思考・判断・表現」において県平均・全国平均を上回っているものもあった。選択式の問題ではあるが、「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」（設問1一）と「文の中における主語と述語との関係を捉える」「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」（設問3三）においては平均値を上回った。本校が重点的に取組みを進めている「語り合い」「伝え合い」の学びが反映され、相手に自身の考えを伝えきる手段の思考について定着が見られる結果となったと考えられる。

以上のことより、国語科については基礎知識となる漢字の学習についてより力を入れて学習に取り組むと共に、成長・定着してきている「思考・判断・表現」面について更なる指導の工夫を凝らしながら学習を進めていきたいと考える。

- 漢字の学習により力を入れていきます。
- 「語り合い」「伝え合い」を大切に、学習場面により取り入れます。



(2) 算数科の調査結果及び分析

調査対象	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
さちが丘小学校	99	11.6 / 16	72
神奈川県(公立)	70,594	11.3 / 16	70
全国(公立)	994,101	11.2 / 16	70.2

区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
		さちが丘小	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体	16	72	70	70.2
評価の観点	知識・技能	77.3	74.4	74.1
	思考・判断・表現	65.8	65.1	65.1

算数科の調査結果においては、全国平均及び神奈川県平均を約2%上回る結果となった。観点別に見てみると、「知識・技能」において正答率が全国平均と約3%上回り、「思考・判断・表現」の正答率も平均を若干上回っている。「知識・技能」面に着目して出題問題を見てみると、グラフを用いて数量関係を整理する設問(3【2】)や複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え比べる設問(2【2】)において

全体平均を約10%上回っていた。ただ、三角形の面積を求める設問(2【1】)では、若干ながら全国平均を下回る結果となっていた。算数科における基礎・基本の「知識・技能」は定着し、応用問題の理解にもつなげることができている傾向が見られる。「思考・判断・表現」をより伸ばしていくために、「知識・技能」の定着を大切にして学習を進めたいと考える。

- ・算数科の基礎・基本が定着するように、復習をしながら学力の向上を目指します。
- ・発展的な問題も取り入れながら、「思考・判断・表現」を高めていきます。



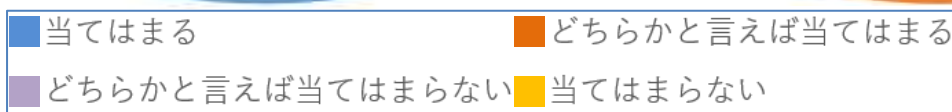
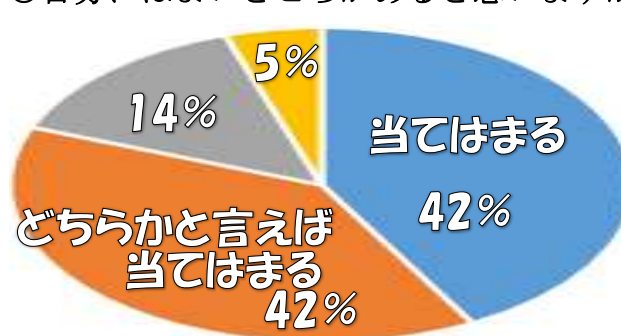
2. 「令和3年度 全国学習状況調査 結果概要」 (本校対象児童数：99名)

学習状況調査においては、質問項目数が多数に及ぶため、2つの調査結果について本校の状況のみに絞って下記に紹介させていただきます。その他の調査結果をご覧になりたい際には、必要に応じて対応いたしますので、本校副校長(小西)までご連絡ください。

○学校に行くのは楽しいですか。



○自分にはよいところがあると思いますか。



学校生活を楽しみながら、自己有用感を育てている姿が感じられる調査結果となった。「どちらにも当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童の存在にも目をしっかりと向けながら、日々の学習・活動に取り組みを進めていく。その他の調査回答においても、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答をした児童が県平均・全国平均を上回る傾向にあった。今後の改善点・取り組み方針としては、ICTの学習での活用面について平均値を若干下回っていたことを踏まえ、様々な学習場面においてICT機器を使用する場面を設定し、メディアリテラシー向上の指導も行いながら技能を高めていきたいと考える。